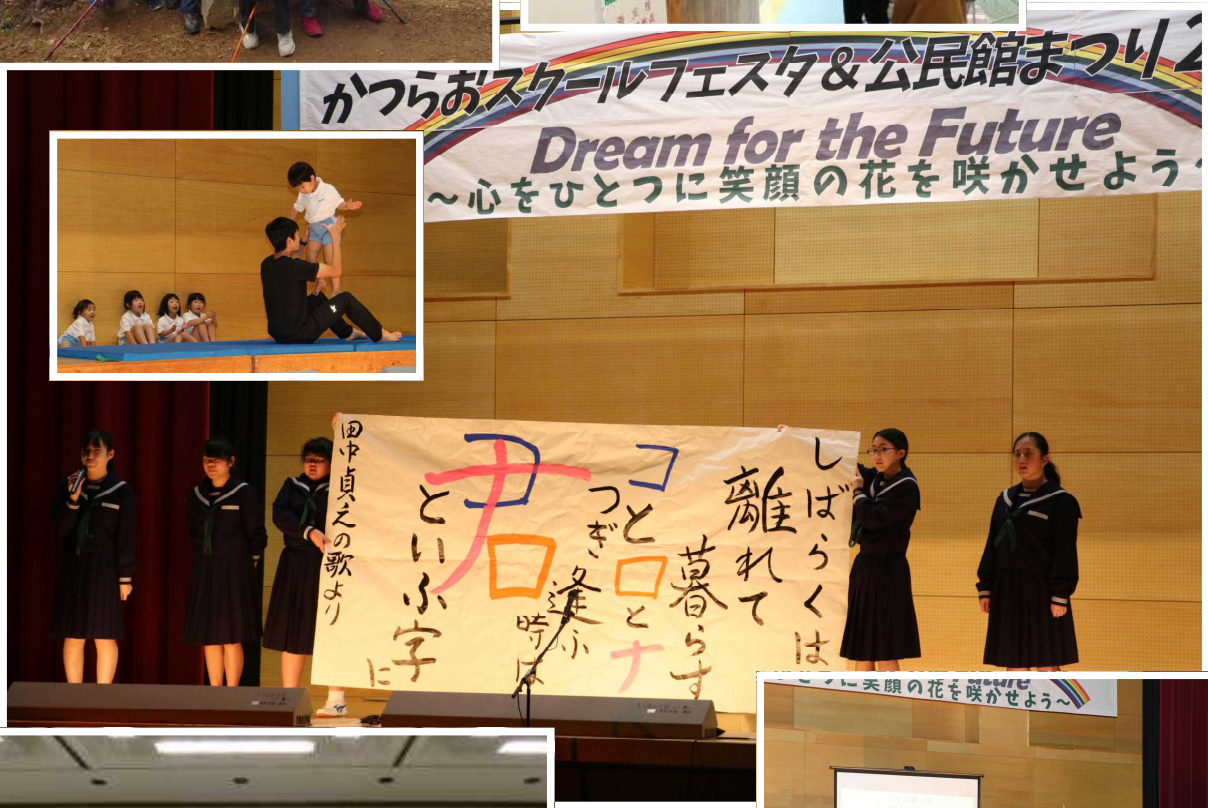
葛尾村には素敵な4つの愛がある

第10号



葛尾村教育委員会

「出会い」は「出愛」。一人一人との出会いを大切に

出愛

只見線で福島再発見

生け花学習

小学校で体験した味噌づくり。震災で受け取れないまま避難した新成人に今回、新たな味噌が配られました

子どもたちと
ともに笑い
ともに夢を
語り合いましょう

伝習館で村の歴史を学習

今年も合同で開催ができた公民館まつり

人生を明るくする「かきくけこ」

か　感動。「なるほど」と感じ、感激、感動する心を持つこと

き　機嫌よく。意識してそう過ごすように努めるのが、周囲への礼儀

く　工夫して。同じことを繰り返さず改善のための小さな工夫を

け　健康。身体と心の健康が充実して生きる基本

こ　貢献・交流。新しい人と交流すると同時に、できるだけ世話をし、貢献を

＊ある雑誌で見つけました

学び愛

戊辰戦争の激戦地を訪ねた女性学級

双葉町の伝承館を訪問

1年間続けた剣道教室

〝ふれあい〟は、子どもたちに勇気と思いやり、耐性を育む

〝愛〟を受け取った人は、〝愛〟を与える人になる

助け愛

人は、夢を育て
夢は、人を育てる
夢を持って生きる大人の姿が
子どもたちにも、
勇気と自信を
誇りと夢を育てていくのです
ともに夢を語り合いましょう

今年度の「花いっぱいコンクール」で、奨励賞をいただきました

中学生による読み聞かせ

毎年行っている募金活動

自分のために、葛尾村のために

幼稚園児から感謝のメッセージ

ふれ愛

コロナ対策をとって
２回に分けて出かけた
寿学級

保護者の皆さんといっしょに花壇づくり

幼稚園での書道教室

「言葉は生きている」ことを十分に噛みしめて

私が出会った４つの愛

コロナ禍での助け愛

葛尾中学校　二年　渡辺　さくら　さん

震災から十年という月日が経とうとしています。葛尾村は原発事故の影響で村民がバラバラになってしまいましたが、その状況でも絆を深め、少しずつ元に戻ろうとしています。しかし、コロナ禍でなかなか外にも出られず、みんな我慢している日々が続いています。

その中で、私は、一番大切なことは「助け合い」だと感じています。元幼稚園の先生の紀美子先生が、手作りの布マスクを幼小中の児童生徒に何度もプレゼントしてくださいました。なかなかマスクが手に入らなかったときには、本当に助かりました。布マスクは洗濯して何度も使えるのでとても便利です。私も自分でできることを率先して行い、こうしてみんなで助け合いながら感染予防に努めていきたいと思いました。どんなことがあっても団結できる葛尾村であってほしいし、震災やコロナウイルスに打ち勝っていきたいです。

人のことを思いやり、誰かが困っていたら協力して助け合う、そんな葛尾村が大好きです。

紀美子先生からいただいたマスクを持って

＊　写真の何枚かは，葛尾幼小中学校ＨＰのものを使わせてもらいました

かつらお「４つの愛」推進プロジェクトの思い

令和３年がスタートして早一月が経ちます。昨年は春からコロナ一色の一年でしたが、今年も流行の収まる気配は見えません。約１００年前に流行したという「スペイン風邪」は、１９１８（大正７）年から１９２１（大正１０）年までの足かけ４年にわたって３度の大きな流行を繰り返したと聞きます。現在は、流行の速度や期間は、緩やかだった昔に比べると急ぎ足のような気がしますが、収束までの時間は覚悟しておいた方がいいかもしれません。身体はもちろん、心の健康にも気をつけていきたいものです。

さて、そのような中で、昨年葛尾中学校の生徒たちは、手紙による交流に取り組みました。オンラインだけでなく、工夫しだいでいろいろなことができそうですね。

葛尾村教育委員会教育長　小野田　敏　之

発行：葛尾村教育委員会　　発行日：令和３年２月１日